

## その身を<sup>てい</sup>挺して守ったもの

日長 「整理するぜ。ダイヤは意外と熱に弱い。だから親父は、溺<sup>できあい</sup>愛してた嘆きのダイヤをレーザーの熱から守ろうとしたんだ。自分の体でな」

日長 「もちろん、親父もどこからレーザーが発射されているかはわからなかったはずだ。だから展示台の周りをまわって——ダイヤが光らなくなる場所を見つけて、そこに留まったんだろうな」

翡翠 「それで展示台と窓の間にいたんだね。そこがレーザーの射線だったから。結果的に、そこがシャンデリアの真下だった。ううん、逆か。父さんをそこに移動させるために、犯人はダイヤを光らせたんだ」

阿望剛は嘆きのダイヤを<sup>かば</sup>庇って亡くなった。

いや、庇って殺されたのだ。

堇青 「……1つわかったことがあるわ」

日長 「なんだよ？」

堇青 「探偵さん、<sup>いぬぼうざき</sup>犬吠埼さんの涙の理由。レーザーには熱を発するものがあるって、私も父さんも犬吠埼さんに聞いたの。もしあれを聞いてなかったら、きっと私も父さんもそんなこと知らなかったし、知らなければ<sup>かば</sup>庇う理由もない」

堇青 「今思えば、あれも犯行計画の一部だったのね。事件の十日前、別館で火災報知器の誤作動があったでしょう？ あ那时候私も父さんも近くにいて、すぐに<sup>か</sup>駆け付けたんだけど、その誤作動の原因がレーザーだったの」

堇青 「怪盗の予告状の件もあったでしょう？ 念のために犬吠埼さんに調べてもらったの。そしたら、誰かが強力なレーザーを熱センサーに当てたんだろうって」

犬吠埼は監視カメラの映像を調べ、警報が鳴る直前に映像にドット<sup>か</sup>欠けが起きているのを見つけた。

ドット欠け——映像欠けの主要な原因の1つは、カメラが強力な光を受けること。それは強力な光が——レーザーが使われたという明確な証拠だった。

月長 「犬吠埼さんのあの時の言葉、そういう意味だったんだね。私が死に誘<sup>いぬぼうざき</sup>ったって……。自分が余計なことを教えなければ、父さんは死ななかつたはずだ、ってことだったんだ」

日長 「待てよ。ってことはあの探偵、あの時点で犯人のトリックを見破ってたってことか？　じゃあなんで言わなかったんだよ」

翡翠 「わからないけど……実は事件の翌日、犬吠埼さんから連絡があったの。この事件の真相を探っちゃいけないって。姉さんも兄さんも言っても聞かないだろうから私に連絡してきたみたい。そのときこう言ってたよ。解けば解くほどこの事件は解決不能になるって」

翡翠が伝えた探偵の謎めいた言葉に、しばしの沈黙が降りる。

堇青 「……気になるわね」

日長 「あの宝石探偵の言葉か？」

堇青 「それもだけど。どちらかと言えば、警察の動きがよ。翡翠にこう言ってきてるってことは、彼女、警察にだって何かしらアプローチしてるはずよ。あの黒岩って刑事とも顔見知りだったみたいだし。それなのに警察の動きが早過ぎる」

堇青 「いえ、違うわね。そもそも、この異常な事件に対して警察の動きが早過ぎるのよ。まるで何か焦<sup>あせ</sup>ってる……隠<sup>かく</sup>したいことがあるみたい」

そのとき、翡翠のスマホが震えた。着信だ。

翡翠は素早くスマホを耳に当てると、見取り図に何かを書き込んでいく。

翡翠 「わかったよ、シャンデリアが落下した原因。代理店も販売元も売り捌<sup>さば</sup>いてから夜逃げしたみたいで、どこも連絡付かなくて大変だったけど、カナダの消費者センターに情報があつた。同型のシャンデリアの事故記録がいくつか、それとセンターが調べた落下原因」

続けようとして、言葉がつかえる。

翡翠 「やっぱり、欠陥品<sup>けっかんひん</sup>だったみたい。つまり、これは。これは……ケチって安いシャンデリアを選んだ私の責任だ」

彼を死に誘ったのは私です——探偵・犬吠埼の言葉を思い出す。

そうか、彼女はこういう気持ちだったのか。そう考えた瞬間に、翡翠は自分の瞳から涙が溢れ<sup>あふ</sup>そうになっていることに気付いた。

堇青 「違う。悪いのは犯人。あなたじゃない」

翡翠 「……うん」

頷きながら、翡翠は涙を拭う。

そう——私達には証明しなければならないことがある。

堇青 「犯人がどうやって父さんを殺したかはわかった。これでやっと本題に入れるわ。いい？ 警察が到着するまでに、私達で私達の潔白を証明する」

▽追加情報カードも調査可能。追加情報は、公開後に同名の証拠カードに重ねる。

▽捜査&議論（フェイズ3）を開始する。